

令和4年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立横川西小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和4年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

令和4年4月19日(火)

3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年（国語、算数、理科、質問紙）

中学校 第2学年（国語、社会、数学、理科、英語、質問紙）

4 本校の実施状況

| | | | | | | |
|------|----|-----|----|-----|----|-----|
| 第4学年 | 国語 | 85人 | 算数 | 85人 | 理科 | 85人 |
|------|----|-----|----|-----|----|-----|

| | | | | | | |
|------|----|-----|----|-----|----|-----|
| 第5学年 | 国語 | 79人 | 算数 | 79人 | 理科 | 79人 |
|------|----|-----|----|-----|----|-----|

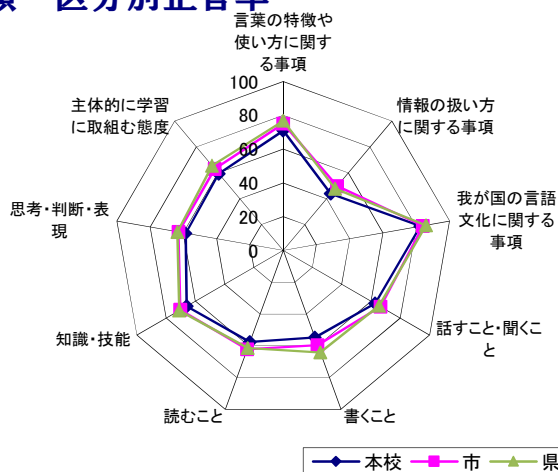
5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立横川西小学校 第4学年【国語】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

| 分類 | 区分 | 本年度 | | |
|-----|----------------|------|------|------|
| | | 本校 | 市 | 県 |
| 領域等 | 言葉の特徴や使いに関する事項 | 70.9 | 75.1 | 76.7 |
| | 情報の扱いに関する事項 | 43.9 | 49.6 | 47.8 |
| | 我が国の言語文化に関する事項 | 82.4 | 84.0 | 85.9 |
| | 話すこと・聞くこと | 62.8 | 66.5 | 65.5 |
| | 書くこと | 54.7 | 59.6 | 64.2 |
| | 読むこと | 57.6 | 62.2 | 61.5 |
| 観点 | 知識・技能 | 66.0 | 70.2 | 71.1 |
| | 思考・判断・表現 | 58.6 | 62.9 | 63.6 |
| | 主体的に学習に取り組む態度 | 59.3 | 63.0 | 65.5 |



★指導の工夫と改善

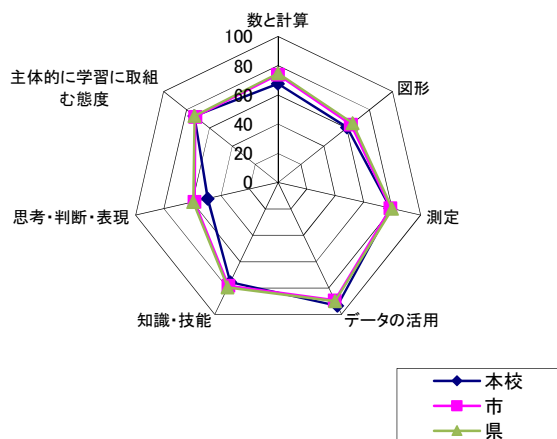
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

| 分類・区分 | 本年度の状況 | 今後の指導の重点 |
|----------------|---|---|
| 言葉の特徴や使いに関する事項 | ○第3学年の漢字の読み書きについては、ほとんどが県平均正答率と比べ上回っている。 ●言葉の学習については、県平均正答率と比べ10ポイント以上低い。 | ・主語や述語などの文法については、授業だけでなく朝学習や家庭学習などでも取り上げ、定着が図れるよう繰り返し指導する。 ・語彙を豊かにするために、図書室を利用し本に触れ読書をする機会を増やす。また、読み聞かせを行う。 ・タブレット端末を利用し文字を入力する際には、積極的にローマ字入力を行う。 |
| 情報の扱いに関する事項 | ○国語辞典の使い方については、県平均正答率と比べやや下回っているが、おおむね定着している。 ●情報と情報との関係について理解し、要約する問題では、県平均正答率と比べ10ポイント以上低い。 | ・説明文の読解において、文章の中心となる語や文を適切に探すことができるよう丁寧に指導する。 |
| 我が国の言語文化に関する事項 | ○漢字のへんやつくりについての問題では、8割以上の正答率で知識が定着していることがわかる。 ●県平均正答率と比べ3.5ポイント低い。 | ・漢字の学習については、日々の家庭学習の積み重ねが大切なので、今後も継続して指導していく。 ・既習事項の復習を取り入れる。 |
| 話すこと・聞くこと | ○聞き取りによる話し手が伝えたいことの中心を捉える問題では、9割近くの正答率で聞く力が定着していることがわかる。 ●互いの意見の共通点や相違点に着目して考えをまとめる問題では、県平均正答率と比べ4.9ポイント低い。 | ・学級活動などの話し合いの機会には、意見と共に理由を述べるよう指導していく。 ・友達と自分の意見や理由を比べながら聞く習慣を付ける。 |
| 書くこと | ○自分の意見を明確にして文章に書く問題では、7割以上の正答率であった。自分の意見を伝える力がおおむね定着している。 ●2割以上が無回答であることから、書くことへの苦手意識が高いことがわかる。 ●意見と理由を分けて2段落構成で文章を書くことについては、正答率が34.1%で県平均正答率と比べ15.7ポイント低い。 | ・授業や家庭学習に作文を取り入れ、日頃から文章を書く機会を増やし、書くことへの抵抗感を減らす。 ・書きたくなる題材を提示し、書く意欲を高める。 ・作文の書き方や段落構成など基本的な知識を繰り返し指導し、定着を図る。 |
| 読むこと | ○説明文や物語文の叙述を基に内容を捉える問題では、7割以上の正答率であった。 ●場面の変化を読み取る問題では、正答率が18.8%で県平均正答率と比べ3.5ポイント低い。 | ・物語文を意味段落で分ける学習において、場面の変化を表すキーワードに着目させる基本的な知識を繰り返し指導する。 ・文章を読んで、感想や考えをもち交流する活動を増やす。 |

宇都宮市立横川西小学校 第4学年【算数】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

| 分類 | 区分 | 本年度 | | |
|-----|---------------|------|------|------|
| | | 本校 | 市 | 県 |
| 領域等 | 数と計算 | 67.6 | 73.8 | 74.8 |
| | 図形 | 60.5 | 63.7 | 65.3 |
| | 測定 | 78.8 | 78.9 | 80.1 |
| | データの活用 | 93.5 | 89.3 | 90.0 |
| 観点 | 知識・技能 | 75.6 | 78.3 | 79.5 |
| | 思考・判断・表現 | 49.4 | 58.6 | 59.5 |
| | 主体的に学習に取り組む態度 | 73.1 | 72.3 | 73.1 |



★指導の工夫と改善

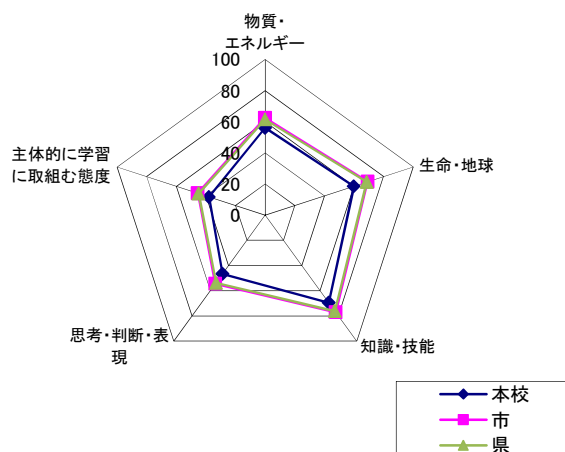
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

| 分類・区分 | 本年度の状況 | 今後の指導の重点 |
|--------|---|---|
| 数と計算 | <p>○割り算の2桁÷1桁=1桁(あまりなし)の問題では、正答率が県よりも2.7ポイント上回った。また、分数の真分数+真分数=真分数の問題では、県よりも6ポイント上回った。シンプルな計算が得意に感じる。</p> <p>●2桁×2桁の掛け算は正答率が県よりも8ポイント下回り、計算の仕方を説明する問題については県よりも10ポイント以上下回った。複雑な計算が苦手である。</p> | <ul style="list-style-type: none"> 基礎的内容の定着を図るために継続して計算ドリル等の反復練習に取り組む。 朝の学習や家庭学習などを活用しながら継続して指導し、基礎基本の理解と定着を図るようにする。 授業でも自分の考えを説明したり、表現したりする機会を増やす。 |
| 図形 | <p>○二等辺三角形になる理由を説明する問題において、正答率が県と市よりも3ポイント上回った。</p> <p>●作図をする問題については正答率が県よりも8ポイント下回った。道具を使って、手順が多い問題は苦手なようである。</p> | <ul style="list-style-type: none"> 応用ができるように様々な練習問題を解き、多様な見方で問題を解くことができるようにしていく。 苦手に感じている児童や理解が定着していない児童に対して、少人数指導を活用しながら、計算問題だけではなく、図形などを使った様々な形の問題にも対応できるように、苦手克服ができるよう個別に指導していく。 演習を重ねて作図の問題に慣れさせる。 |
| 測定 | <p>○1分=60秒の関係の問題では、正答率が県よりも3.5ポイント上回った。</p> <p>●時間や道のりを求めたり、はかりの目盛りを読んだりする問題については、県よりも2ポイント下回った。自分の身の回りで想像できない数の大きさの問題については、数の概念をとらえることが難しいようである。</p> | <ul style="list-style-type: none"> 学習内容の理解を深めるため、生活と結び付けた問題、数が想像できないのであれば、身近な大きいものを提示したり、類題に積極的に取り組ませたりするなど、繰り返し問題に取り組むことで学習内容の定着を図る。 時刻や時間の読み方など再度確認した上で、文章問題など活用問題を繰り返し取り組み、さらなる定着を図る。 |
| データの活用 | <p>○表とぼうグラフの問題では、正答率が県や市と比べても2ポイント以上上回った。無回答もほぼいなかった。見てわかるような問題は得意な傾向が見られた。</p> <p>●類型外の誤答が見られた。問題文を読み解く力が低い傾向が見られる。</p> | <ul style="list-style-type: none"> 言葉・図・グラフ・数直線などを用いて考えたり説明したりする学習を積極的に取り入れ、子ども同士の学び合いの機会を設定するとともに、少人数指導も活用し、多様な見方で解決する力を育てる。 棒グラフの縦軸、横軸が何を表しているのか、どんな特徴があるグラフなのか、またグラフのどこを確認すれば問いに答えられるのかを段階的に指導していく。 まとめや振り返りの活動の際、教師が児童の発話からキーワードを提案し、自分の言葉で書くなど、記述力向上を図る。 文章問題の解く量を増やすと同時に読み取る際のことや数的考え方につながる単語や言葉を教師自身も授業内で多く使っていく。国語と並行して語彙量を増やす。 |

宇都宮市立横川西小学校 第4学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

| 分類 | 区分 | 本年度 | | |
|-----|---------------|------|------|------|
| | | 本校 | 市 | 県 |
| 領域等 | 物質・エネルギー | 56.1 | 62.5 | 61.5 |
| | 生命・地球 | 60.0 | 69.2 | 68.6 |
| 観点 | 知識・技能 | 69.5 | 77.2 | 76.3 |
| | 思考・判断・表現 | 46.6 | 54.4 | 53.7 |
| | 主体的に学習に取り組む態度 | 37.9 | 45.5 | 44.9 |



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

| 分類・区分 | 本年度の状況 | 今後の指導の改善 |
|----------|--|---|
| 物質・エネルギー | <p>○平均正答率を市や県と比較すると、正答率が低い項目が目立つ。一方でそれぞれの単元の正答率を県の平均正答率と比較すると、6項目中4項目において本校の正答率が微差ではあるが上回り、また、すべての単元において、-6%以上に収まる項目が少なくとも一つはある。これらのことから、物質・エネルギーに係る学習において、単元による偏りなく学習が行われていることが分かる。</p> <p>●知識を記述する問題について、県の正答率と比較して、10%以上の差がある項目が見られる。また、記述のない問題と記述する問題の無回答者の出現率を同様における県平均と比較すると、前者は2%以下の差異になる一方で、後者では4%以上の差異をもっている。この結果から、記述すること自体をあきらめる児童が多い傾向が見られる。</p> | <p>○基本的な理科の用語については、定着を図ることができるよう、授業の中で簡単に質問したり、児童自身が使う機会を与えたりすることによって、繰り返し学習し、定着を図る。</p> <p>●基礎的な知識を用いて考える能力を育成するために、授業の中で予想、実験(観察)及び振り返りという一連の学習の流れを定着させ、持っている知識から推測したり、考えたりすることを楽しみながら学習に取り組むことができるようにする。</p> <p>●どんな問題にも挑戦しようとする態度を育てるために、授業の中で問いについて自分の言葉で説明し合う活動を取り入れ、自身の考えがまとめや結論などと結びついていることを実感できるようにする。</p> |
| 生命・地球 | <p>○こん虫のからだのつくりに関する問題では、体の特徴から昆虫か昆虫でないかを判断する設問の正答率が、市の正答率と同様であった。こん虫のからだのつくりについて、基本的な知識が身に付いていると考えられる。</p> <p>●植物の育ち方に関する問題では、市の正答率よりも12ポイント低い結果になっている。ホウセンカの子葉を理解しているか問う問題では市の正答率よりも20ポイント低い結果となっていて、解答率は市や県とほぼ同様だが、類型外解答が他よりも約20%高い29.4%の割合でいる。</p> <p>●太陽と地面のようすに関する問題では、市の正答率よりも10ポイント以上低い結果になっていて、正答率が45%に届かない。温度計を読む設問では、正答率が65%ほどで、類型外解答や無解答を合わせて30%近くいる。</p> <p>●単語だけではなく記述問題の無解答率が10~15%ほどいる。</p> | <p>○基本的な知識については、定着が図れるようにプリントで繰り返し復習する。</p> <p>●虫眼鏡は、動植物の観察で使い、日頃から積極的に使わせる。</p> <p>●温度計を教室に置き、1年間継続して気温を読むことで、温度計が身近なものとなるようにする。</p> <p>●身の回りのふしぎなことを見つけるノートを作るなど普段から身の回りのふしぎなことを考えるような機会を作る。</p> <p>●授業において、自分の言葉で説明する活動を充実させる。また、無回答が多いことから、書き方の具体的な指導も必要になる。理科以外の学習でも自分の考えを言葉にすることには力を入れる。</p> |
| | | |

宇都宮市立横川西小学校 第4学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「家で、学校の宿題をしている」という質問では、肯定的回答をした児童の割合は97.6%と、ほとんどの児童が学校で与えられた課題に取り組んでいることが分かる。これは、県の平均よりも4ポイント高い結果である。

○「学習して身に付けたことは、将来の仕事や生活の中で役に立つと思う」という質問では肯定回答する児童の割合が県の平均よりも2.8ポイント高かった。学んだことは自分の将来に役立つという見通しをもって学習に取り組んでいる児童が多いことがわかる。今後もその意欲を高めながら学習活動を行っていききたい。

●「家で学校の授業の復習をしている」という質問では、復習していないと回答する児童が県平均よりも18.8ポイント高かった。その日の学習をその日のうちに復習する習慣を作っていきたい。

●平日の読書時間に関する質問では、全く読まないと回答する児童が県平均よりも12ポイント低かった。毎日少しでも読書をする習慣作りを勧めていきたい。また、月に1～2冊しか読まない、1冊も読まないと回答する児童も多い。読書の楽しさが感じられる指導を工夫したい。

●「学校の宿題はやりたくない内容だ」という質問では、否定的な回答をする児童の割合が県平均よりも18.8ポイント高い。宿題は基礎的な内容の習熟を狙って出しているが、意欲を高めるような内容の宿題も工夫していきたい。

●「毎日の生活が充実していると感じる」という質問では、否定的な回答をする児童の割合が県平均よりも10.5ポイント高い。充実していないと考える理由について考察し、学校生活に理由のある部分について改善をしていきたい。

●「友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意である」という質問では、否定的な回答をする児童の割合が県平均よりも26.4ポイント高い。苦手と考える理由について考察し、得意になることのできる支援方法を工夫していきたい。

●平日のテレビ、動画視聴に費やす時間が県平均よりも長く、4時間以上と答える児童も3.2ポイント高い。また、ゲームに費やす時間も県平均よりも軒並み長い。家庭への啓発など、時間の使い方について考えることができるようにしたい。

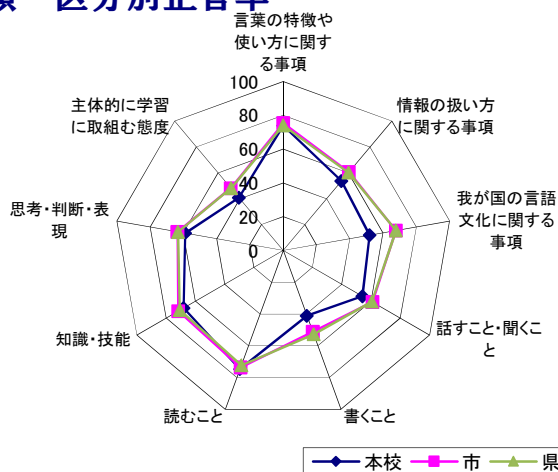
●「自分にはよいところがあると思う」という質問では、肯定的な回答をする児童の割合が県平均よりも10.9ポイント低い。自己肯定感をもてない原因を探り、高めるための支援を工夫していきたい。

●国語も算数も、好きと回答をする児童の割合が県平均よりも低い。意欲が高まり学習が好きと感じられる授業づくりに努めたい。

宇都宮市立横川西小学校 第5学年【国語】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

| 分類 | 区分 | 本年度 | | |
|-----|----------------|------|------|------|
| | | 本校 | 市 | 県 |
| 領域等 | 言葉の特徴や使いに関する事項 | 73.9 | 75.4 | 74.1 |
| | 情報の扱いに関する事項 | 53.6 | 60.5 | 60.2 |
| | 我が国の言語文化に関する事項 | 51.9 | 67.7 | 67.8 |
| | 話すこと・聞くこと | 54.2 | 61.0 | 60.7 |
| | 書くこと | 41.1 | 51.2 | 52.8 |
| 観点 | 読むこと | 74.7 | 73.7 | 72.4 |
| | 知識・技能 | 68.1 | 71.7 | 70.6 |
| | 思考・判断・表現 | 58.9 | 63.5 | 63.2 |
| | 主体的に学習に取り組む態度 | 40.8 | 48.2 | 48.1 |



★指導の工夫と改善

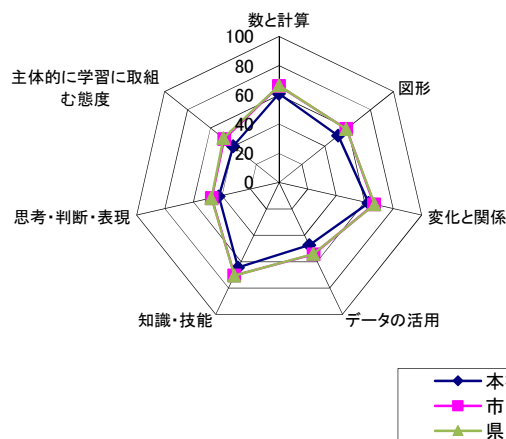
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

| 分類・区分 | 本年度の状況 | 今後の指導の重点 |
|----------------|---|---|
| 言葉の特徴や使いに関する事項 | <ul style="list-style-type: none"> ○おおむね市の平均正答率とほぼ同じであった。漢字の読み書きでは少し上回っていた。 ●連体修飾語や気持ちを表す語句の問いの平均正答率は県の平均よりも10ポイント以上低かった。 | <ul style="list-style-type: none"> ・今後も継続して漢字の学習に取り組み、いろいろな熟語に触れさせることで日常生活で使えるようにしていく。 ・修飾語などの語句について、国語の授業以外でも意図的に授業で取り上げて解説したり、朝の学習や宿題で取り組ませたりして習熟させる。 |
| 情報の扱いに関する事項 | <ul style="list-style-type: none"> ○情報と情報との関係について理解し、中心となる語や文を見つけて要約する問いの平均正答率は市の平均より上回った。 ●漢字辞典の使い方や情報と情報との関係について理解し、理由や事例などを挙げながら問いに答える問題では、市の平均正答率を10ポイント以上下回った。 | <ul style="list-style-type: none"> ・漢字辞典を常時活用できるように学習環境を整えとともに、活用する場もつくり、使い方を理解して学習に生かしていけるようにする。 ・授業だけでなく、朝の学習や宿題などで説明文やアンケート調査などから必要な情報を探したり要約したりする問題に取り組ませ、理解を深める。 |
| 我が国の言語文化に関する事項 | <ul style="list-style-type: none"> ○「さるも木から落ちる」については意味や使い方を理解している児童が多かった。 ●ことわざの意味を知り、正しく使う問いに対する正答率は市の平均を15ポイント下回った。 | <ul style="list-style-type: none"> ・授業だけでなく、朝の学習や宿題などでことわざを調べたり、使い方を考えさせたりするなどしてことわざに親しませ、習熟を図る。 |
| 話すこと・聞くこと | <ul style="list-style-type: none"> ●全ての問いで市の平均正答率を下回った。特に調査の結果をもとに話し合う問いで10ポイント以上下回った。 ○話の内容が経験したことであることに気付き、内容を大きく捉えることができた児童が9割近くいた。 | <ul style="list-style-type: none"> ・話すことについては、伝えたいことを整理し、聞き手に分かりやすく伝える工夫を実践できるよう指導していく。朝の1分間スピーチや他の教科でも話す場を多く設けたい。 ・聞くことについては、学校生活全般で発表者の意図を考え、自分の考えと比較しながら聞く力を養っていく。 |
| 書くこと | <ul style="list-style-type: none"> ○解答した児童の75%が、取材メモをもとに、「いつ」「どこで」「だれが」「どうした」を明確に書くことができた。 ●平均正答率は市や県より大きく下回っている。3つの項目で10ポイント以上下回っている。無回答の児童が27.8%もいて、大きな課題が見られる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・約3人に1人が無回答であり、平均正答率を下げていると思われる。まずは書く活動を国語だけでなく他の教科や行事などでも多く取り入れて、内容ではなくたくさん書く訓練をする。『書く』ことへの抵抗感を減らす。その上でよい内容のものを児童に知らせ、書く手本としていく。 ・視写に取り組ませる。よい文章を写すことで書く内容について考えさせたり、書き方を学んだりさせる。 |
| 読むこと | <ul style="list-style-type: none"> ○物語文の人物の性格を読み取る問いや説明文の要約の問いでは県の平均正答率を上回った。他の問いはほぼ同じであった。 ●人物の心情を、文章の叙述をもとに考える問題では、県の平均正答率よりも低い結果となっている。 | <ul style="list-style-type: none"> ・物語文では、叙述に即して人物の心情や情景を正しく読み取れるように授業で丁寧に取り組んでいき、自分の考えをノートに書く活動を多く取り入れる。 ・説明文では、段落の関係や文章の構成について気を付けながら読ませ、簡潔に要点をまとめ学習に丁寧に取り組んでいく。また、文章を大きなまとまりで捉える力も養う。 ・引き続き読書を奨励する。 |

宇都宮市立横川西小学校 第5学年【算数】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

| 分類 | 区分 | 本年度 | | |
|-----|---------------|------|------|------|
| | | 本校 | 市 | 県 |
| 領域等 | 数と計算 | 60.8 | 66.1 | 66.4 |
| | 図形 | 51.7 | 58.9 | 58.8 |
| | 変化と関係 | 62.8 | 66.6 | 67.0 |
| | データの活用 | 47.5 | 54.4 | 54.2 |
| 観点 | 知識・技能 | 64.4 | 70.4 | 70.6 |
| | 思考・判断・表現 | 42.3 | 47.2 | 47.5 |
| | 主体的に学習に取り組む態度 | 40.0 | 47.8 | 48.8 |



★指導の工夫と改善

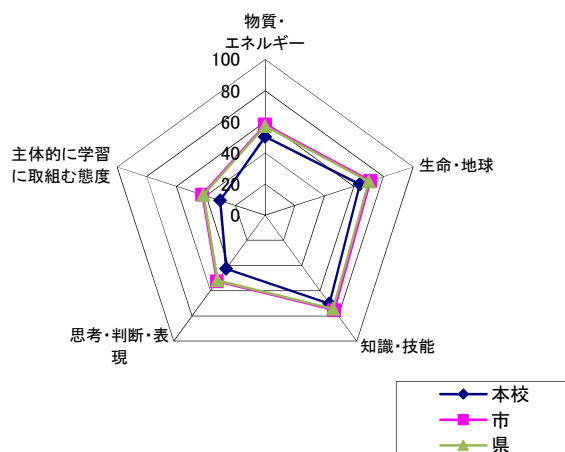
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

| 分類・区分 | 本年度の状況 | 今後の指導の重点 |
|--------|---|--|
| 数と計算 | ○小数を10倍した数を求める問題は、県の正答率を7ポイント上回っている。 ●全体的に県の正答率を下回っている。中でも「分数の大小比較」や、「概数に対応する数の範囲」の理解は県正答率を10ポイント以上下回っている。 | ・整数、仮分数、帯分数、真分数の大小比較の問題を解かせて、慣れさせる。 ・四捨五入して特定の位までの概数になる問題の解き方をもう一度押さえ、反復練習する。 |
| 図形 | ○角の大きさの問題については、おおむね県の正答率と同じくらいできている。 ●平行四辺形の作図については、県の正答率を27ポイント下回っている。 | ・平行四辺形の作図の仕方について、コンパスを使ったかき方の復習をする。 ・コンパスの使い方や、引いた線の性質などについて、もう一度押さえる。 |
| 変化と関係 | ○伴って変わる2つの数量の一方の値から、もう一方の値を求める問題では、県の正答率を4.6ポイント上回っている。 ●図を使って基準量を求めるための除法の立式をする問題では、県の正答率を8.9ポイント下回っている。 | ・もともになる数、比べられる数は何なのかの求め方を復習する。特に問題文からどう読み取るのかを復習する。 ・基準量を求める時の立式の仕方について復習する。 |
| データの活用 | ○表を読み取って、二次元表の読み方を理解する問題では、県の正答率とほぼ同じくらいできている。 ●表を読み取って、求め方を説明する問題では、県の正答率を21.7ポイント下回っている。 | ・一問一答の問題だけでなく、複数答えることが聞かれる問題を解くことに慣れる。 ・単元の最後のまとめの時間に、応用・発展問題として答えを説明する問題などを解かせる。 ・求め方を説明する文の書き方に慣れさせる。 ・普段の授業から、答えだけを発表させるのではなく、その理由を書かせたり、発表させたりして、根拠を明確にさせる。 |
| | | |

宇都宮市立横川西小学校 第5学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

| 分類 | 区分 | 本年度 | | |
|-----|---------------|------|------|------|
| | | 本校 | 市 | 県 |
| 領域等 | 物質・エネルギー | 50.4 | 58.1 | 57.2 |
| | 生命・地球 | 63.9 | 71.1 | 70.0 |
| 観点 | 知識・技能 | 70.3 | 75.5 | 74.4 |
| | 思考・判断・表現 | 42.6 | 52.7 | 51.9 |
| | 主体的に学習に取り組む態度 | 30.4 | 42.4 | 41.7 |



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

| 分類・区分 | 本年度の状況 | 今後の指導の改善 |
|----------|---|---|
| 物質・エネルギー | <p>○「ものの温まり方」に関する問題では、市と県の平均正答率と同様、あるいは7ポイント以上上回っているという結果だった。温度によるものの体積の変わり方について、基本的な知識が身に付いていると言える。</p> <p>●「電気のはたらき」に関する問題では、市や県の平均正答率よりも10ポイント低い結果となっている。電気の性質や回路についての学習が定着しきれていないことがわかる。</p> <p>●記述問題で無解答の児童が全体の15～27%の割合でいることが分かった。自分の言葉で自然の現象について説明することに課題が見られる。</p> <p>●理科の授業で学ぶ自然の事象の法則やきまりと、生活の中での現象とを関連付けて考える問題の正答率が、いずれも低いことが分かった。</p> | <p>・基本的な理科の用語については、定着が図れるように繰り返し指導する。</p> <p>・予想を立てたり、結果から考察したりと、自分の言葉で説明する活動を充実させる。また、無回答が多いことから、どのように書けばよいのかなどの例文を通して、具体的な指導も必要になる。</p> <p>・身の回りにある自然現象に興味をもって学習に取り組むことができるように、児童が自分で疑問をもつことができるような導入をする。</p> <p>・授業で学習した法則やきまりと関係する身の回りの現象を、具体例を挙げて紹介することで、理科と実生活の関連性を高める。</p> |
| 生命・地球 | <p>○季節とその時の生き物の様子に関する問題では、県とほとんど差がない結果となっていた。</p> <p>●1年間の植物の成長に関する問題では、季節とサクラの木の様子を対応させる設問の正答率が、市や県の平均よりも10ポイント低い結果となっている。</p> <p>●天気と気温の変化に関する問題では、正答とは反対の結果を選択する誤答が全体の40%を超えていることが分かった。</p> <p>●実験の結果から分かることを記述する問題の正答率が、「物質・エネルギー」の領域と同様に市や県の正答率より低く、また無解答の割合が多い結果となっている。</p> | <p>・覚えるべき内容が身に付くようプリントで、繰り返し復習する。</p> <p>・動物や植物については1年間継続して観察し、変化の様子を捉えやすくするなどの工夫をする。</p> <p>・日頃の生活や自己の経験、見聞などを理科的事象と関連付けて、児童の興味関心を高めるようにしていく。</p> |
| | | |

宇都宮市立横川西小学校 第5学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「勉強していて、おもしろい、楽しいと思うことがある」という設問に、肯定的回答をした児童は91.2%と市の割合よりも6.1ポイント上回っている。また、「むずかしい問題にであうと、よりやる気が出る」という設問に対しても、肯定的回答をした児童は64.6%と市の肯定割合よりも10.5ポイントも上回った。このように学習に関する設問での肯定的回答が高いことから、学習に対する意欲の高さが伺える。授業中の様子からも、発展的な問題にも粘り強く挑戦する児童が多くみられる。今後も、児童の興味関心をひく内容や発展的な問題を取り上げたり児童の頑張りを認め励ましたりすることで、主体的に学びに向かう力を育てていきたい。

○「クラスの友達との間で、話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり広げたりすることができている」という設問に肯定的回答をした児童は、84.8%と市の肯定割合よりも5.8ポイント上回っている。他にも話し合い活動に必要な「自分の意見を発表すること」「友達の話をよく聞くこと」に関する設問に対しても、市の肯定割合を4ポイント以上上回っていた。今後も自分の考えをもつ時間をしっかりと確保してから児童同士で話し合う場を設定し、意見交換をするよさを感じさせるとともに学級全体での学びを深めていきたい。

○「自分はクラスの人の役に立っていると思う」という設問では、肯定的回答をした児童は69.6%と市の肯定割合よりも5.1ポイント上回っている。普段の様子からも、係活動や当番活動、委員会活動等の自分の役割に責任をもって取り組んでいる児童が多くみられる。今後も、児童同士や担任からの励ましの言葉を積極的に掛けるようにし、一人一人の自己肯定感や所属感を高めていけるように支援していきたい。

●「学校の授業時間以外に、普段1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか」という設問では、平日では「30以上、1時間以内」、休日では「1時間以内」という回答が最も多く、家庭での学習時間が市の割合よりも低い現状である。また、「普段1日当たりどれくらいの時間、テレビやDVD、動画などを見たり、聞いたりしますか」という設問では、「4時間以上」「2時間以上3時間以内」と回答した児童が最も多く、「普段1日当たりどれくらいの時間、テレビゲームをしますか」という設問では、「2時間以上3時間以内」と回答した児童が最も多かった。テレビ・ゲーム等の使用時間については、市の割合よりも高い現状である。このことから、家庭学習の時間が少なくなり、テレビ・ゲームの時間が長くなってしまっていることが考えられる。宿題だけでなく自主学習を推奨したり、テレビやゲームの時間の再確認を呼び掛けたりして家庭と連携して取り組んでいきたい。児童自身にも、時間の使い方について考えることができるようにしたい。

●「算数の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えている」という設問では、肯定的回答をした児童は68.3%と市の割合よりも1.8ポイント下回った。算数を実生活と結び付けることが難しいことが原因となり、苦手意識をもっている児童が多いように感じる。算数に対する苦手意識を減らし、楽しく学習に取り組むことができるように、今後は生活場面を問題とするなど児童にとって身近なものを取り上げたり、学んだことを生かして問題を解いたりするなど教材を工夫して授業を展開していきたい。

宇都宮市立横川西小学校（第4・5学年共通） 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

| 重点的な取組 | 取組の具体的な内容 | 取組に関わる調査結果 |
|---------------|--|---|
| 学びを実感できる授業づくり | 1時間ごと、また単元を通じた学習課題やめあてを明確に示し、見直しをもたせるとともに、めあてに沿った学習のまとめと振り返りを行う。 | 「授業の最後に、学習したことをふり返る活動をよく行っている」、「ノートには学習の目標とまとめを書いている」の肯定割合は、市や県よりも高い結果であった。 |

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

| 調査結果等に見られた課題 | 重点的な取組 | 取組の具体的な内容 |
|---|---|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・1日当たりの携帯やスマートフォンの使用時間が、市や県の平均よりも長い傾向がある。 ・学校の授業以外の勉強時間が市や県の平均よりも低い傾向がある。 ・「宿題はやりたくない内容だ」について、否定的な回答の割合が、県の平均よりも高い。 | <ul style="list-style-type: none"> ・授業に集中して取り組めるよう、生活リズムを見直す。 ・家庭学習の啓発を行う。 ・家庭学習での課題の出し方を検討する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・児童指導と連携し、生活リズムと学習への影響について知り、睡眠時間とゲームの時間について自分の生活を振り返り、見直す機会を設ける。 ・家庭学習の内容について、学年に応じて適切な内容かを吟味する。 ・自主学習の意義ややり方についての指導を行う。 |